

演習用事例(市町村用)

◇研修前に取り組むこと

・以下の事例を読み、浅野保健師と同じ所属で働く保健師であると仮定し、実際のグループワークで使用するワークシートを活用しながら、個々で情報の整理を行い、課題解決に向けた事業・施策について考えてください。

◆研修中に取り組むこと

- ・個々で検討したことを共有し、グループで課題解決に向けた事業・施策について考えてください。
- ・1グループ5分程度で、統括保健師に相談又は報告する形で発表してください。

近年、就労や育児、介護など女性を取り巻く環境は大きく変化しており、国は健康日本 21(第三次)においてライフコースアプローチを踏まえた健康づくりを推進している。

A市は埼玉県内にある人口約35万人の市である。子育て世代の流入が多い一方で共働き世帯が増加しており、30代・40代女性の就労率も年々上昇している。市では健康増進計画に基づき健康づくり事業を進めているが、働き盛り世代の女性へのアプローチが課題となっていた。

A市の浅野保健師は、健康増進計画策定時のアンケート結果を分析したところ、10年前と比較して朝食欠食、睡眠不足、運動習慣の低下など健康行動に課題がみられることに着目した。また女性の心疾患や脳血管疾患に関する指標も悪化傾向がみられた。

そこで浅野保健師は、30代・40代女性の健康課題を明らかにするため、市民アンケートのデータの分析を行った。その結果、就労率の上昇に伴い、食生活や休養、運動習慣、検診受診率等の自身の健康管理に十分な時間を確保できない女性が増えている可能性が示唆された。

さらに、データからは見えない実態を把握するため、助産師会関係者へのインタビュー及び先進自治体への聞き取りを実施した。助産師からは「仕事・育児・介護の両立による負担」「自分の健康を後回しにする傾向」「更年期に関する知識不足」などが挙げられた。また、受診が必要と思われるにもかかわらず受診行動につながらないケースがあることが分かった。

先進自治体への調査では、女性向け健康相談、関係機関との連携、多様な周知媒体の活用などの取組が行われていた。一方で、参加者確保や若い世代への周知が課題として挙げられていた。

これらの結果から、30代・40代女性が正しい健康情報を入手し、自身の健康状態に関心を持ち、予防行動につなげられる環境づくりが必要であると考えた。さらにA市では、女性の健康の大切さについて啓発する機会があまりなかったため、ターゲットの属性に応じた適切な情報発信や、自身の健康に関心を向け、予防行動が取れるようなきっかけづくりに取り組む必要があると考えた。

浅野保健師は、①ライフステージに応じた効果的な情報発信、②企業や関係機関と連携した女性の健康づくり支援について、新たな事業の検討を始めた。